

第40回全日本少年サッカー大会 U18 審判研修会 研修レポート

参加者：住吉 圭介

期間：12月24日(土)～12月29日(木) 5泊6日

会場：ふれあいスポーツランド／鴨池陸上競技場／ホテルタイセイアネックス

1日目 12月24日(土)

16時 ホテル集合

16時30分～17時30分 開講式・研修について

研修の目標：仲間のために！

今大会の大会役員(審判員)として参加していることを忘れない。服装、言動、情報管理、健康管理をしっかりとすること。大会を成功させるために全力を尽くす。

19時30分～21時 大会を成功させるとは？

全日本少年サッカー大会は年間の活動の集大成。仲間との最後の大会。保護者は子供の成長を見ることができる試合。選手、クラブにとって最高の思い出になるように。嫌な思い出にならないように。サッカーが嫌いにならないように。審判員として競技規則に違反して妨害している選手から競技規則を守っている選手を保証する。また、審判員として嫌な思い出をつくらない。全力でやる！すべては競技者のために！

2日目 12月25日(日)

8時～9時 競技規則テスト

9時～10時 1人制審判について

的確な判定のために何を見るのか。どこで見るのか。ボールウォッチャーにならない。すべては的確な判定のために！2つのことを見る(「今」と「未来」)。未来を見ることができるようになる。それを実行するために何をするのか。身体の向き、ステップワークなどを使って実行する。

10時～11時 フィジカルとトレーニングについて

試合前のアップでは、1. ウォーキングやジョギング 2. モビリティエクササイズ 3. 加速走 4. ストレッチ 強度や時間、感覚など変えてやって



いく。

試合後のダウンでは、流血量の確保をする(軽度の有酸素運動)。アクティブなリカバリーを。ウォーキングやジョギング、入浴。食事はキックオフの3時間前までにとる(脂質の少ないもの)。キックオフの2時間前は、おにぎり、パン、具の無いそばなど。キックオフの30分前は、バナナ、ゼリー状のサプリメント、スポーツドリンクなど。試合後には、プロテイン、オレンジジュース、バナナなど。体内の水分は体重で判断でき、運動前の体重から減少するのは2%以内まで。2%を超えると水分が足りていない状況。

12時30分～13時30分 フィジカルトレーニング

ジョギングやストレッチ(姿勢に気をつける)。体幹トレーニングやジョギング、スプリントの練習。加速、減速の練習。

13時30分～16時 プラティカルトレーニング

1. オフサイドを正確に判定するために

4対3+ゴールキーパーという状況のなかでオフenseの選手はスループスを味方選手に出す。その中でスループスを受けた選手や2列目の飛び出し、キーパーがはじいたボールを押し込む選手がオフサイドであるかを判定するトレーニング。どのタイミングでプレーに干渉したのか、キーパー接触する可能性は

あるのか、相手競技者への干渉や利益を得ているのかを最後までしっかり見極める。

2. フィジカルコンタクトを正確に見極めるために

3対2(ゴールキーパーはなし)の状況でオフENSEの選手は深い位置にボール当てる。その際、周りの選手もサポートに行く。その中で争点でのコンタクトや争点ではない部分でのコンタクトを反則であるか、懲戒処置は必要であるかを見極める。

3. カウンターへの動き出し

4対3+ゴールキーパーという状況でポゼッションをしているなかでボールをディフェンスの選手は奪い、ディフェンスの選手は前線にいる味方選手にロングボールを送りロングカウンターの状況で次の争点の予測やアフターファウル、キーパーのハンドを見極める。

17時～18時 リスペクトワークショップ

20時～20時30分 大会レギュレーションの確認

20時30分～21時30分 審判割当の確認と大会にのぞむにあたって(グループ別活動) グループナンバー：D2(ユース審判員6人+地域育成インストラクター2人+JFAインストラクター1人)

1グループ5人または6人のグループでディスカッションや割当を含め活動していく(割当は1次ラウンドとラウンド16までは同じグループの審判員で担当していき、1次ラウンドは主審と補助審判、ラウンド16は主審と副審と第4審判が任命される)。翌日(12月26日)の割当の発表とグループでの目標の設定。D2グループの目標は、「走ること」、「予測」、「オフサイドの判定」。

3日目 12月26日(月)

8時30分～17時 審判実技(ふれあいスポーツランド)

担当試合：グループH マッチNo.16 10時30分キックオフ サガン鳥栖 vs ヴェルフェたかはら那須(主審)

良かった点：補助審判と協力してタッチジャッジができていた。首を振って周りの状況を確認していた。

反省点：オフサイドを見逃していた。幅を広くとりオフサイドが見やすいポジ



ションへ。空中戦をもっと角度をつけて監視する。

担当試合：グループ G マッチNo.40 14時15分キックオフ ソレッソ熊本 vs
ヴァンフォーレ甲府

良かった点：特になし

反省点：特になし

19時30分～20時30分 ゲームのために

キックオフ時、違反をしている選手がいるのにもかかわらずプレーを続けさせている。スローインの再開場所が明らかに違うのにもかかわらずプレーを続けさせている。指導者や保護者が見ても分かるような違反を審判員は反則として見ていない。ハーフタイムは10分間必ずとる。選手の権利を保証する必要がある。

20時30分～21時30分 審判割当の確認とグループの共通課題(グループ別活動)

翌日(12月27日)の割当の発表とグループの共通課題の確認。D2グループの共通課題は、「ボールウォッチャーになっていること」。

4日目 12月27日(火)

8時30分～17時 審判実技(ふれあいスポーツランド)

担当試合：グループJ マッチNo.72 11時30分キックオフ 太陽SC宮崎 vs
入江SSS(主審)

良かった点：補助審判と協力してタッチジャッジができていた。幅を広く使ってポジションをとっていた。

反省点：争点での選手の競り合う時の手の使い方を監視する。

担当試合：ラウンド16 マッチNo.79 15時15分キックオフ FCレスターvs
センアーノ神戸(副審1)

良かった点：主審とアイコンタクトがしっかりとれていた。

反省点：ラインキープができていない時があった。

19時30分～20時30分 目標をもつ

自分の好きなどころ、嫌いなどころは？将来どのような人間になりたい？審判員として将来どのような審判員になりたいか、どのような審判員になりたくないのか。

20時30分～21時30分 共通課題の確認(グループ別活動)

D2グループでの割当が最終日だったということで翌日(12月28日)からは決勝トーナメントの担当とフレンドリーマッチの担当にわかれてしまうので自分が任命された試合でどのようなことをしていくのかD2グループ内で目標の設定と確認。D2グループの目標は、「協力」。

5日目 12月28日(水)

6時45分～7時 割当の発表

8時30分～13時30分 審判実技(鴨池補助競技場、鴨池陸上競技場)

担当試合：決勝トーナメント準々決勝 マッチNo.84 センアーノ神戸 vs 北海道コンサドーレ札幌(主審)

良かった点：1審制の動きが抜けていない部分もあったが、ピッチをしっかりと走って副審サイドにも寄っていた。

反省点：アイコンタクトをもっとスムーズに。「つまづかせる」の考え方。

14時～16時30分 準決勝2試合観戦研修

19時30分～20時30分 技術と審判の強調



技術委員会は「スピーディー」、「フェア」、「タフ」な選手を求めている。その部分には審判の協力も必要である。インプレーの時間を増やすためにもアドバンテージの適用やプレーの再開を遅らせないようにさせる必要がある。ゲームの流れを大事にし、審判の立場からも選手の育成を。

20時30分～21時 技術と審判の強調の振り返り

アドバンテージの適用やプレーの再開を遅らせないようにする必要がある。しかし、審判はすべてがそのようにはできない。技術から求められていることをすべて行おうとするとゲームのコントロールなどが難しくなる部分もある。その部分を考えながら強調していく必要がある。

21時～21時45分 懇親会

6日目 12月29日(木)

8時30分～11時 決勝観戦研修

11時～11時30分 閉講式

12時30分 解散

研修会に参加した感想

今回の研修会に参加したことによってたくさんの刺激を受け、素晴らしい経験になりました。全国各地から45人のユース審判員が集まり、他の審判員を見て学ぶことばかりでした。講義では多くのディスカッションをし、グループは6人だけでしたが様々な視点から意見があり審判としての考え方が研修前と研修後で変わりました。インストラクターの方々をはじめ、初めて会う人しかいないなかでのコミュニケーションや、協力して試合を運営し大会を成功させるということは今までにはない経験であり素晴らしいものだと感じました。私は選手がこのチームでやる試合が最後になるかもしれない試合を担当する、自分のパフォーマンスによって自分の経験に繋がる割当がもらうことができ茨城県の代表として恥のないようにできるか、この2つの責任感を感じました。準々



決勝の主審を担当することになったのを発表された時は自分の経験に繋がる試合を担当することができるという思いもありましたが、担当することができない審判員のためにも自分が全力で担当することだけは忘れないで担当しよう思いました。しかし、自分のなかで準決勝以上の試合を担当するという目標を持ち準決勝以上の割当をもらってこいと言われたなかでもらうことができ

なかったので悔しい思いと茨城県のインストラクターの方々やお世話になった方々に申し訳なく思いました。自分の実力はそこまでだったというのを痛感しましたが、このような経験ができたのも研修会に参加したからであると思えます。この気持ちは忘れず、これからの茨城県での活動に必ず生かしていきます。また、4種の最高峰の大会でこのチームの選手として最後の大会になるというなかで審判員としてこの大会に携わることができて本当に感謝しています。

最後に、このような素晴らしい研修会の参加者に私を選んでいただいた茨城県サッカー協会審判委員会の方々に心より感謝申し上げます。